

## 奥羽山系農山村における世帯構成と食物摂取の関係

○笹田陽子 加賀綾子（盛岡大短大部）

【目的】21世紀は高齢者の世紀といわれ、国民の4人に1人が高齢者となる。農山村においては高齢化率はさらに深刻で、調査地Y町では平成7年には26.8%の高齢化率を示し、少子化、若者の都会流出も加わりその世帯構成は核家族化が進行している。そこで、農山村における世帯構成が食物摂取に及ぼす影響を知り、高齢化社会に対応する栄養指導の基礎資料を得る目的で本調査を行った。

【方法】1. 調査地域：岩手県奥羽山系南西部のY町。2. 調査対象者：40～70歳代119名（男性48名、女性71名）。3. 調査期間：平成7年3月。4. 調査項目：食物調査（記述および面接法、期間は3日間）、生活状況調査。

【結果】対象者の世帯構成を核家族（2世代）、拡大家族（3世代）、その他に分類すると、男性：核家族40%、拡大50%、その他10%、女性：核家族44%、拡大49%、その他7%であった。また、世帯構成別の平均年齢は男性：核62.9±9.5歳、拡大58.0±12.1歳、女性：核61.0±8.9歳、拡大57.5±11.3歳で男女共核家族が高かった。栄養素等摂取状況を充足率で見ると、男性は核家族のC比が高く、動蛋白の低いこと、女性はすべての栄養素で核家族の充足が低く、特にC比、エネルギー、脂質、カルシウム、ビタミンA、ビタミンE、食物繊維は有意に低かった。また、料理の好みは世帯構成との関連が認められず、男女間では男性が辛い料理を好むことが判った。健康意識を世帯構成別に見てみると核家族は食事、拡大は旅行・レジャーに男女共出現が高く、また、男女別では、男性は定期的な健康診断、旅行・レジャー、スポーツが高く出現し、女性は食事、睡眠・休養であった。以上より世帯構成と食物摂取には関連のあることが判った。